

南 風 2012年10月 第2号

みなみかぜ

発行 有秋南小学校区安心安全ネットワーク
問合せ 姉ヶ崎保健福祉センター 62-8601

"コミュニケーションの場"
地域に信頼される
魅力ある南小!



- 「めざす児童像」**
- ・よく考え進んで学ぶ子
 - ・自分も人も大切にする子
 - ・最後まで頑張る子
 - ・心も体も健康で明るい子
- 「めざす学校像」**
- ・豊かな心と確かな学力を

**有秋南小学校の
教育目標**

新しい時代を 心ゆたかに
たくましく生きる
子どもの育成

南小安心安全ネットワークは、有秋南小学校と地域の交流を深め、子どもたちの健全な成長を見守り支える活動を通して、安全安心な福祉の街づくりを進めています。今年も、五月の運動会を手始めに学習参観、まち探検、防犯訓練、防災教室整備、合同防災訓練等に参加・協働して参りました。この絆を一層広げ深めるため、地域と学校の連携に積極的に「尽力頂いている音藤校長先生に学校紹介をお願いしました。」



育む学校

- ・保護者や地域に信頼される魅力ある学校
- ・安全 安心な学校(防災・安全教育の推進に努める。子どもの安全安心を最大限に配慮した教育の推進に努める)

児童・教職員!

多い時の児童数は、八〇〇人を越えていましたが、現在は四分の一までに減少

	男子	女子	合計
1 学年	24	9	33
2 学年	26	19	45
3 学年	13	12	25
4 学年	12	23	35
5 学年	19	19	38
6 学年	17	18	35
合計	111	100	211

していません。教職員は二十人です。

校舎等施設!

- 「校舎」北棟：十九室、南棟：二十室。
- 「体育館」八百一十一平方メートル。
- 「プール」二十五メートル七コース。
- 「グラウンド」二百メートルトラック。
- 「その他」非常用井戸、非常用発電機

学習参観!
常時受け付けています

保護者のみならず地域の方の参観も随時受け付けています。短い時間でもかまいません。来校の際は、玄関から入り来校者名簿に氏名を記載し、職員室に声をかけてください。

防災教室!
参観をしませんか

北側校舎の三階に「防災教室」をネットワークの方々のご協力で作りました。非常災害時に役立つテントや



トイレの作り方、ロープワークや南小校区の防災マップ等が展示されています。

南っ子たちは、ここに紹介されたように、地域を大切にする先生方の指導のもとですくすくと成長しています。最近、特に感じることは、子どもたちが非常によく挨拶を交わしてくれることです。元気な声を貰うと本当に嬉しくなり、足どりも軽くなります。

二十年前前までは、子どもの遊び声を聞いて自分も安堵したのですが、今では近所の子どもの声もほとんど無く寂しくなりました。笑顔や「おはよう」、「今日は」、「お帰り」の挨拶交換でも、学校イベントへの立寄りでもいい。子どもたちとの「かわわり」を大切にしながら、元気な街づくりを進めます。みなさま方のご協力をよろしく願います。



いざと云った時の共助の在り方について多くの知見を得ることが出来ました。

災害に備える

学校と地域///保護者・先生・地域

地震災害を想定した市原市総合防災訓練が、9月2日(日)南小学校にて行われました。今年度はこれまでと違い学校区毎に実施されることとなり、南小校区会場では地域と小学校が協力して防災訓練と防災学習を行いました。おかげで私たちは、子どもたちを見守りながら、先生方や保護者との連携を深め、

訓練しました

1. 基本訓練(全地区で実施する訓練) 避難時期行動訓練、避難誘導訓練
2. 地区選択訓練(基礎訓練に加えて、各地区が行う訓練) 南小児童避難訓練 煙道体験訓練 初期消火訓練 南小児童下校訓練

学習しました

1. ポンプ操法見学(第8分団)
2. 児童の防災学習(防災ボランティアによる)
3. 学校現地対策本部立上訓練(ネットワーク)
4. 防災教室の見学・学習

参加者

地域・

357人、児童・218人、消防団・40人、市役所他・6人 合計・621人

(参考)

*西小校区・149人、*東小校区・93人、*有



秋中校区・49人

振り返る・反省

多数の方々のご参加有難うございました。訓練結果については各団体組織で既に検討済みと思いますが、ここでは主に、地域と学校が共同して実施したことの意義について考えてみました。次に繋げるため、皆様方の意見やご提案を「南小校区安心安全ネットワーク」までお寄せください。

1. 計画・運営について 五月から行政に対し、我々の

の計画を説明しお願いしてききましたが、町会への説明等スムーズでないことが多々あった。

2. 地域住民と児童の共同訓練について 同一環境下と一緒に訓練・学習が出来たことは、お互いが夫々を認識し合う絶好のチャンスで非常に有意義であった。先生方からも好評を頂いた。

地域の方々の校舎内見学や災害ボランティアによるロープワークの学習等、学校に対する親近感が醸成出来た。地域の方々にとつて地区選択訓練(煙道体験、初期消火)については、物足りなさがあつたかもしれない。検討が必要。

3. 現地対策本部の立上りに関して 現地対策本部に関わるため学校に直行できる人数が少ない。ボランティアを増員する等の対応を要する。次の段階として、地域住民による対策本部へスムーズに移行するための検討が必要。

4. 天羽田・深城など遠方からの避難は大変であるが、地元住民の共助力は強い。

5. 避難者の多い一時避難所では人数が多く混雑して、連絡・確認に手間取っていた。班毎または区毎の集場所を具体的に決めておく必要がある。



6. 学校反省会より 防災無線・防災ラジオが聞き難い。けが人に対する車イスは1台で良いか。避難時の雨天・暑さ・寒さ対策も考えておくこと。登下校時の避難場所を決めておく必要あり。また、学校留置きを的確に判断し、保護者との連絡を密にする

想定外の事態が起こるので訓練・学習を積み重ねることが必要。



編集後記

山中伸弥京都大学教授に、ノーベル生理学・医学賞が贈られることになりました。

授賞理由の「体細胞初期化」技術は、病気やケガで傷んだ臓器や組織に、iPS細胞で作った新しい細胞を移植する「再生医療」分野など、将来の医療を一新する可能性がありそうです。多くの人々が、一日も早い実用化を待っています。一層のご活躍を切にお願いしたいものです。

良いニュースの少ない今日この頃、この榮譽を称え、輝く日本を共に喜びたいと思います。